

**議員** 現在、常総市では水害の復旧復興に向けて全力で取り組んでいるところであるが、同時に私は大地震の対策も急務と思っている。行政、地域、そして市民一人一人の災害意識を高めることにより、大規模地震発生時には自助、共助、公助が一体となり、被害を最小限に抑えることができるのと同時に、早期の復旧復興にもつながるものと考えている。そこで、市内の自主防災組織の結成状況を伺いたい。

**市民生活部長** 現在、市内の自主防災組織は

**自主防災は地域コミュニティから!!**

今後の災害対策について



大澤 清 議員



坂野 茂実 議員



86あり、毎年増加している。

**議員** 市内を100%カバーするには何組織が必要と想定されるか。

**市民生活部長**

市内には自治区が約200あるので、200くらい結成されるのがいいと思う。

**議員**

昨年の関東・東北豪雨水害時には、地域において高齢者、障がい者、病気の方を避難誘導することができただろうか。自主防災組織を有効に活用することで対処できたかもしれない。形式的な自主防災組織ではなく、一人一人が危機管理意識を持ち、組織の目的を明確にし、避難所運営管理や災害時要援護者を助けられる地域コミュニティ組織であればと考えている。阪神・淡路大震災では約15万人が生き埋めになり、そのうち11万5000人は自力で脱出したが、残りの約3万5000人のうち77%は近隣住民に救出されたとのことである。震災イコール避難だけではなく、救助活動を行う実践的な研修や訓練も必要である。防災士の取得なども促進していきたいと考えている。ご配慮をお願いしたい。

□ 殿 園 圃 JOSOSHIGIKAYORI JOSOSHIGIKAYORI JOSOSHIGIKAYORI JOSOSHIGIKAYORI □ 殿 園 圃



「青少年の家」について

**鬼怒川西部の防災拠点として!!**

**議員**

現在、災害ごみの仮置き場となっている青少年の家は、あすなるの里と同様に避難所としても機能する、大変重要な公共施設であると考えている。現在、青少年の家はどのような状態か。

**教育部長**

建物の老朽化が激しいため、今後使用を続けるためには耐震診断や耐震補強等が必要になると思われる。

**議員**

建物の耐震性に問題があるとのことだが、なぜ耐震診断が行われなかったのか。あまり使われていなかったから診断をしなかったということか。

**教育部長**

診断後の利用方法を十分に検討してから耐震診断を行おうと考えていた。

**議員**

ぜひ耐震診断をして補修を進め、避難所等に活用できる施設に整備していただきたい。青少年の家は高台にあり、水害は問題ない。地震に対しても液状化

の心配もない。地下水もそれなりの対応をすれば飲料水に使える。市民に二度と災害の苦勞をさせないでほしい。

**市長**

青少年の家のグラウンドの質は非常に良く、建物も木造校舎で貴重である。また、西地区は水害に強く地盤もいい。今回の水害からの反省ということを考えれば、新たにあの地域全体をしっかりと防災の拠点としても考えていく必要があると思っている。当然耐震診断をやらなくてはならない。新たな位置付けもしなくてはならない。それは同時に進めていきたいと思う。

**議員**

避難所、また多機能な施設としてぜひ進めていただきたい。



青少年の家